

# こんにちは せいてつ 病院です

## 特集

### 麻酔科医による 麻酔のはなし

- こんにちは探検隊  
権頭クリニック
- Zoom upがん医療は今  
子宮がん検診の必要性
- わたしたちのあらたな思い  
地域・救急医療のミッション  
診療部門、診療技術部門、  
看護部門の管理者が思いを語る
- なるほど！なっ得！薬の話  
治験の巻
- こんにちは体験ルポ  
入院食事ができるまで
- 医療をささえる看護のちから  
14病棟

## 理念 安心・安全

患者さんの安心・安全  
職員の安心・安全  
病院の安心・安全

## 基本方針

患者さんの人権を尊重し  
インフォームド・コンセントを大切に  
安心して任せられる医療とサービスを提供します  
地域との連携を大切に かりつけ医との協力のもと  
24時間信頼される診療体制を充実させます  
最新・最良の医療水準をめざして研修・教育に努め  
チーム医療の推進を図ります





# 麻酔科医による 麻酔のはなし

特集

「手術が必要です」といわれたら、不安を感じない人はいないと思います。さらに全身麻酔でとなれば、ネガティブで断片的な情報により漠然とした不安をますます抱いてしまうのではないのでしょうか。そこで、日頃なじみが薄い“麻酔”と、その安全を担う“麻酔科医”について紹介します。

## 麻酔とは？

麻酔は、表1に示しました4つの要素から成り立っています。一般的に“麻酔”といえば、鎮痛(表1-①)や鎮静(表1-②)を意味しますが、表1の③や④も同じくらい麻酔の重要な要素です。手術をより行いやすい環境をつくるためには、全身の筋肉の緊張をとることが必要です。これは、呼吸を行う筋肉にもおよぶので、患者さんにご自分の力で呼吸ができなくなります。つまり人工呼吸が必要となります。

また、手術は外科医が慎重に、丁寧に進めていきますが、体が受けるダメージは、大きなケガをした場合と何ら変わりありません。この大きなダメージ

に対して、生体は色々な防御反応で身を守ろうとしますが、必ずしもうまく働くとはいえません。ときには過剰反応となり、本来

表1 麻酔の4要素

- |                             |
|-----------------------------|
| ① 痛みをとる(鎮痛)                 |
| ② 意識をなくす(鎮静)                |
| ③ 確実な手術操作が行えるように全身の筋肉の緊張をとる |
| ④ 手術時の侵襲や有害な生体の過剰反応から守る     |

自分を守るはずの反応が、自分自身を痛めることとなります。これらの過剰反応や、手術によるダメージから患者さんを守ることも、麻酔の重要な要素なのです。

## 麻酔科医

麻酔中の患者さんの体が“特別な状態”であることは、今述べたとおりですが、これは微妙なバランスのうえに成り立っています。ですから、うまく操縦しないとバランスを崩して、命にかかわる事態になりかねません。そこで、手術には麻酔に専従する“麻酔科医”が必要となります。わたしたち麻酔科医は“麻酔状態”のバランスをとることにより、患者さんの手術中の安全を守り、快適性を保ち、手術後の速やかな回復に寄与しています。

麻酔科医は、経験や資格から標榜医・認定医・専門医・指導医の4つに分けられます(図2)。どの麻酔科医も、まだまだ絶対数が足りないことはマスコミの報道どおりですが、当院では麻酔科指導医4名が在籍し、24時間365日の体制をとっています。

## 製鉄記念八幡病院の麻酔科事情

当院の手術件数は年間約3,300件で、そのうち2,200件を麻酔科医が管理しています。麻酔科医が関与しない約1,000件は、すべて局所麻酔症例です。全身麻酔や小手術などの局所麻酔以外の手術症例を、すべて麻酔科指導医で対応している病院は、全国的に見ても非常に少ないはずですが、手術中の患者さんに、高いクオリティでの安全を供給できるものと信じております。

また、当院では研修医や若手医師にむけての指導書を刊行し、高い評価を得ています(図1)。



図1 製鉄記念八幡病院麻酔科 著書

## 麻酔の安全

“麻酔は絶対安全です”といたいところですが、残念ながらそうではありません。日本麻酔科学会は、2000(平成12)年に全国520の麻酔指導病院における約100万件の麻酔を対象に調査を行いました。その結果、およそ10万件に1件の割合で、麻酔管理が原因で危険な事態が発生し、貴重な生命が失われています。また命が失われないまでも、約1万例に一例程度は、危険な状態になることがあります。つまり航空機と同じで、ほとんど安全ですが絶対安全ではありません。

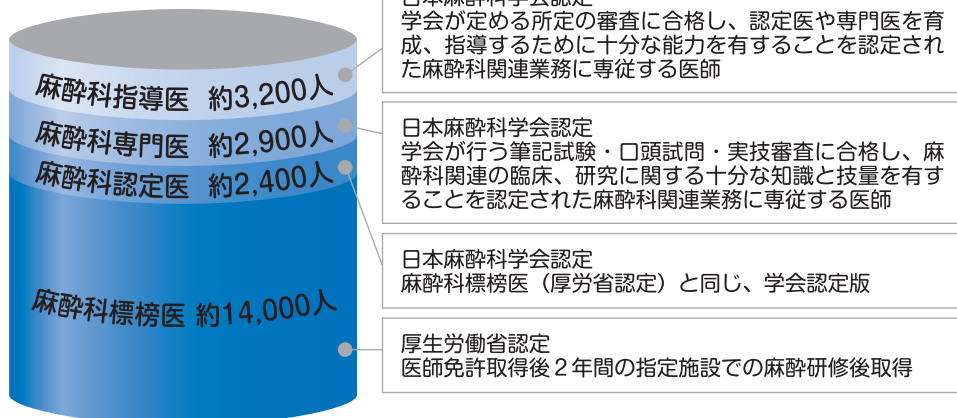
当院麻酔科では、不測の事態が起きないように、最新のモニター機器を駆使して、手術中ずっと患者さんの状態を監視し、わずかな異常も早期に見つけて、すぐに処置できるようにしています。また、不幸にも合併症が発生した場合、迅速に最善の対応をとれるように最大限の努力をしています。

“麻酔”について何か疑問な点や、もっと専門的なことを知りたい方は、遠慮なく麻酔科医師までお声かけください。



手術中の安全を守ります

図2 麻酔科医の種類



麻酔科部長 竹中 伊知郎

日本麻酔科学会指導医  
日本麻酔科学会専門医  
厚生労働省認定麻酔科標榜医

手術室 TEL 093-671-9420

# 権頭クリニック



院長 権頭 聖 先生

今回の探検隊は、八幡西区永犬丸にある権頭クリニックを訪問しました。院長の権頭 聖先生は、平成6年12月に開院以来、病気だけの対応ではなく社会生活を通してのサポーター、身近な「かかりつけ医」でありたいとの思いで、患者さんやご家族のみなさんにとって何がベストの医療であるかを考えながら診療にあたられています。

**Q：先生のコピーをお聞かせください**

**A：**三つの「い」を大切に心がけています。  
 「安 い」…無駄な医療費をかけない  
 「早 い」…待ち時間を少なくする  
 「上手い」…診療、検査など技術面で日々努力を意識している

**Q：貴院の特色を教えてください**

**A：**単独科の診療ではなく、総合診療を行い、病気発症前から相談ができます。また、セカンドオピニオンや生活習慣病に関する栄養・運動指導の相談も大事にしています。内視鏡検査を多く行い、年間では上部消化管内視鏡1,000件以上、大腸ファイバー300件以上を行っています。禁煙外来にはこれまでに100人以上受診され、95%の方が成功されています。  
 また、系列法人である介護施設(おひさま園)、グループホーム(もやい)、特別養護老人ホーム(雪月花)への往診も行っています。

**Q：当院へのメッセージをお願いします**

**A：**紹介患者さんの待ち時間が短く、病診連携には感謝しています。医師、看護スタッフの勉強会には必ず参加しています。



ケアプラザ倶楽部 雪月花



今回の探検隊

総務部 小坂 久美  
 検査部 柴田 美智代

院内はとても清潔感があり、待合室もゆっくりくつろげる空間でした。今回はクリニックのほかに、昨年12月に開設されたばかりの特別養護老人ホーム「雪月花」も見学させていただきました。充実した設備の素晴らしさはもちろんのこと、権頭先生をはじめスタッフの方々が、患者さんの日常生活の中で健康をサポートしたいという熱い思いをもって、医療に従事されているのが伝わってきました。

**権頭クリニック**

八幡西区永犬丸2-10-10  
 TEL093-692-5557

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	△	△
12:00~15:00	大腸内視鏡	大腸内視鏡	12:30まで	大腸内視鏡	大腸内視鏡	12:30まで	△
15:00~18:00	○	○	△	○	○	△	△



産婦人科部長  
林 嘉信

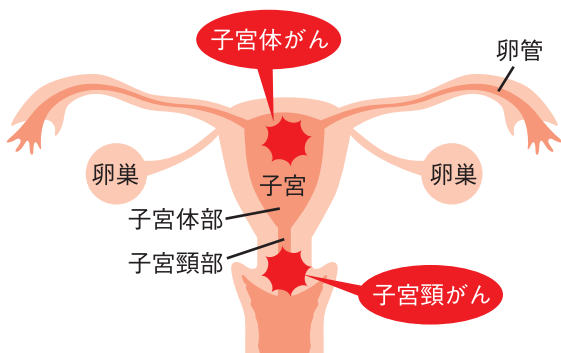
## 子宮がん検診の必要性

若い女性に急増している子宮頸がん  
20～30歳代の女性が発症するがんのNo.1です  
しかし検診を受けることで、あなたの子宮といのちは守れます

### 子宮がんは2種類あります

子宮がんには、子宮の入り口にあたる頸部にできる頸がんと、子宮の奥にできる体がんの2種類があります(図1)。子宮体がんは、異常な出血が続く場合などに、子宮の奥の細胞や組織を調べて診断されることが多く、通常の子宮がん検診の対象ではありません。一方、子宮頸がんは初期にはほとんど症状がなく、自覚症状が現れた段階では、すでに進行している場合が少なくありません。子宮体がんの検査に比べて、頸がんの検査は比較的容易に行うことができるため、無症状のうちに子宮頸がんの検診を受けることが勧められています。

図1 子宮がんの部位



### 増えている子宮頸がん

日本では年間約12,000人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,500人が亡くなっています。また、20～30歳代の若い女性に増えているといわれています。上皮内がんなどのごく初期のがんや、異形成と呼ばれる前がん病変の場合は、子宮を残して治療することも可能です。

しかし発見が遅れると、子宮を失うばかりか、命に関わることにもなりかねません。

### 子宮頸がん検診を受けましょう

とにかく、症状がないうちに子宮頸がん検診を受けることが大切です。検診では、子宮の頸部からブラシや綿棒で細胞を採取し、顕微鏡で検査を行います。日本の子宮頸がん検診受診率は約20%と諸外国に比べて低いため、これを50%以上にあげることが目標として掲げられています。



\*HPV：Human papillomavirus  
性交渉の経験がある女性が一度は感染するといわれています。感染しても、多くは免疫力で排除します。HPVを排除できず感染が続くと細胞に異常を引き起こし、長い時間をかけて、がんに進行します。

	子宮頸がん	子宮体がん
自覚症状	無症状(初期)	不正性器出血
おもな原因	*HPV(ヒト・パピローマウイルス)	女性ホルモン
ピーク	30～40歳代	50歳代
早期発見のために	20歳を過ぎたら定期的に検診を受けましょう	不正性器出血があったら、すぐに受診しましょう

わたしたちのあらたな思い

## 地域・救急医療のミッション

診療部門、診療技術部門、看護部門の管理者が思いを語る

製鉄病院をもっとよくしたい  
地域に愛される病院にしたい  
そういう気持ちが強まった  
進むべき方向の意識統一を



副院長・看護部長

坂本 弘子

新日本製鉄株  
八幡製鉄所病院看護専門学校卒  
九州国際大学卒  
認定看護管理者

副院長・内科系担当

梶原 英二

長崎大学卒  
〈専門〉肝臓  
日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本肝臓学会専門医  
日本肝臓学会指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器病学会指導医

副院長・診療技術担当

金城 満

九州大学卒  
〈専門〉人体病理  
(泌尿器・肝腫瘍病理)  
日本病理学会専門医  
日本病理学会病理専門医研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医  
日本臨床細胞学会指導医  
日本臨床検査医学会専門医  
日本臨床検査医学会臨床検査管理医  
Asian Editor of "Diagnostic Pathology"

副院長・外科系担当  
がん診療センター長

東 秀史

九州大学卒  
〈専門〉消化器、肝臓  
日本外科学会認定医・専門医・指導医  
日本消化器外科学会認定医  
日本消化器外科学会専門医  
日本消化器外科学会指導医  
日本消化器外科学会消化器がん治療認定医  
日本臨床腫瘍学会暫定指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

## 高齢者に対する救急医療の提供は最重要課題



当院は平成23年12月より社会医療法人となり、確保事業として救急医療を掲げています。北九州市は全国でも高水準の救急医療体制が整っているといわれますが、近年の医師の偏在や医療機関の疲弊などの理由で、その高水準を維持することが困難になってきています。なかでも八幡東区は高齢者人口比率が30%以上であり、高齢者に対する救急医療の提供は最重要課題と思われるます。

そのような状況のなか、当院はこれまで年間約3,000件の救急搬送を受け入れ、93%以上の収容率を維持してきました。今後もこれまで以上に公益性の高い医療、とくに救急医療を担っていくという責任と自覚をあらたに持って、地域医療に貢献できればと思います。

## 診療技術部代表者として 安心・安全のチーム医療完成を



北九州の八幡地区にある病院として、地域に密着した病院でありたいと思います。この地域は北九州市の中でも、人口の高齢化がとくに進んでいる地域で、高齢化に正面から取り組む病院でなければならないと考えます。そのためには、高齢者に特有の疾病に対処できるような施設の整備と医師、看護師およびそれを取り巻く種々の医療従事者を充実させていきたいと考えています。

それにより安全で、安心して治療を受けられるチーム医療が完成されると思います。診療技術部を代表するものとして、その方面に力を注いでまいります。

## 研修・教育に努め、 診療に真摯に向き合い 地域に愛される病院に



社会医療法人になったことで、提供する医療が変わるというものではありません。

たとえば、救急医療として今までも軽症から重症な患者さんまで、すべての患者さんを365日、24時間体制で受け入れています。救急車で急患人数は月平均250人、夜間を含めた時間外では約150人を超え、内科系・外科系他計3名と脳卒中センターやその他専門科のオンコール体制で救急患者さんの治療にあたっています。

これを機会にわたしたち医療人は、今後も質の高い医療を提供し続けていくために、研修・教育に努め、患者さんの診療に真摯に向き合い、地域に愛される病院をめざしていくことを改めて再認識しなければならないと思っています。

## つねに患者さんに関わる看護 来るべき在宅医療時代に そなえた強化を



看護はつねに患者さんを生活者として捉え関わります。少子高齢、多死社会の到来を見据え、患者さんを全人的に理解したうえで、安心・安全な医療を提供することは、平成24年度の診療報酬・介護報酬の同時改定で、視点の一つになっている「患者さんからみて分かりやすく納得でき、安心・安全で、生活の質にも配慮した医療を実現すること」と一致します。

国の描く「2025年のあるべき医療・介護の姿」では、急性期病院の平均在院日数はより短縮化に向かい、在宅医療にシフトします。看護部では、退院調整や生活指導に必要な看護ケアのスキルアップとともに、チーム医療の推進や地域連携の強化に取り組むことが重要と考えています。



# 治験の巻



治験という言葉をご存知ですか？

わたしたちが医師から処方されて飲む薬は、長い時間をかけ開発され、国が認めているものです。その歳月は10年以上かかるといわれています。

「薬」として認められるには、安全で効き目があることが証明されなければなりません。これを証明する試験を「臨床試験」といい、国から承認をもらうための「臨床試験」を「治験」といいます。「治験」と呼ばれる試験が、どのようにして行われているのかご説明します。

製薬会社が新しい「薬」を開発するためには、長い道りをたどります。薬の候補物質にきちんと効果があるかどうか(有効性)、どういう副作用が出るのか(安全性)、あるいはどのくらいの量を飲めば効果を最大に発揮するか等を、動物や人を対象として確認が行われます(図1)。

人を対象とした試験は、承認前に治験として3段階あり、さらに承認・販売後にも行われ、大きく4つに分けられています(図2)。

図1 新薬が誕生するまで

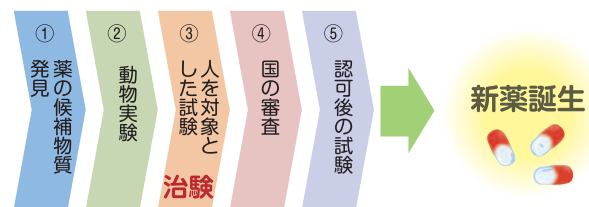
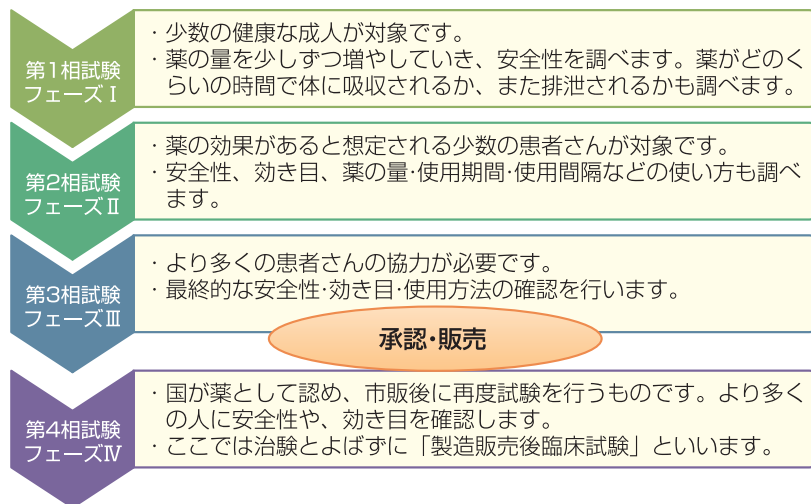


図2



治験には、患者さんの協力が不可欠であり、治験を行う医師(治験責任医師、治験分担医師)や治験コーディネーター・薬剤師・看護師・臨床検査技師などの医療スタッフが協力しあいながら慎重に行われています。医師は、患者さんに対して治験についての十分な説明を行い、同意を得たうえで治験を開始します。あらかじめ実施する採血や検査の内容、医師の診察日などの予定が詳細に決まっているために、定期的な来院が必要です。定期的に採血や検

査を行って、その結果を治験のデータとして用いたり、治験中に体に変化や異常があらわれていないかどうかをチェックしています。

現在、患者さんが使用している薬は、必ず治験を行ったうえで世の中に出てきています。治験は「薬の候補物質」が「薬」になるために、避けてはとおれない試験といえるでしょう。



# 入院食事ができるまで

おいしそうな匂いにさそわれ、入退院受付横の通路をすすんでいくと、その奥には栄養管理部門があります。そこでは管理栄養士・栄養士・調理師・調理補助の総勢29名のスタッフが、毎日の食事をつくっています。回復の手助けとなる特別治療食など、個々の病状に応じた食事メニューを考え、どの患者さんにおいても食事が療養生活の楽しみとなるよう、季節ごとの行事や食材をとり入れた五感で感じるおいしい献立を工夫されています。

今回は、その入院患者さんの食事ができあがるまでを紹介します。



患者さんごとに食事内容がかかれた食事箋が送られてきます



献立を入力します



調理開始！  
野菜・果物は電解水で消毒します



1人分ずつを最終チェック！



昼食のできあがり！  
一般食1,600kcal/日



患者さんのもとへ「いただきます！」



ベルトコンベアーでの盛り付け作業  
一度で指示量ピッタリにつぎ分ける技はまさに職人技！

おいしい食事を提供するだけでなく、調理器具を食材によって使い分けたり、温度・湿度管理や何度も手洗いをおこなったり、衛生管理が徹底されていました。食中毒がおこらないように細部にまで配慮されており、取材中驚きの連続でした。調理後の清掃や点検の時も汚れひとつも見落とさないようチェックしており、妥協をゆるさないプロ意識の高さに感銘をうけました。



今回の体験隊

看護部 看護部  
山本 亜由子 黒澤 深雪



栄養管理部のスタッフのみなさん  
「安心・安全でおいしい食事をおとどけます」

# 14病棟

専門性を生かし、患者さん、家族が  
安心できる看護ケアを提供します



14病棟は外科・血管外科・泌尿器科の急性期病棟で、スタッフは倉地師長をはじめ31名の看護師とクラーク1名・看護助手5名です。外科系病棟のため手術目的で入院される患者さんが多いですが、そのほかにも抗がん剤治療や放射線治療が目的の方もおられます。あらゆる治療方法により、看護ケアはさまざまであり、個々の患者さんに合わせたきめ細かい看護が行えるように取り組んでいます。

**手**術は、患者さんにとって大小に関わらず、手術後の痛みや、不安、活動制限をきたし、身体的にはもちろんのこと精神的にも大きな影響をもたらします。看護師は医師・麻酔科医師・理学療法士・管理栄養士・薬剤師と連携をとり、少しでも患者さんの不安を軽減し、安心して手術に望み、1日でも早く手術前の状態に復帰できるように支援します。

**抗**がん剤治療では、患者さんそれぞれにあわせた薬を使用するため、副作用もさまざまです。副作用予防と早期の対応が大事であり、患者さん自身の知識と日常のケアが重要になってきます。そのため、薬剤師・看護師による副作用予防指導に力を入れるとともに、個々の患者さんに合わせたケアを行っていきます。

**血**管外科では、末梢血管疾患とくに虚血を合併する足の病変に対し、医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、感染防止認定看護師、理学療法士、ソーシャルワーカーと週1回のラウンドカンファレンスを開催しています。カンファレンスでは、潰瘍や壊疽の症例の治療効果を評価するとともにリハビリの進行状況を把握し、今後の看護ケアを決定していきます。



泌尿器科病棟回診



外科総合回診

わたしたちは、治療経過が早く入院日数も短い患者さんが少しでも不安なく、安心して治療を受けられるように、コミュニケーションを大切に、援助していきたいと日々心がけています。患者さんの治そうとする力を最大限発揮できるように、チームで支援していきます。



## 14病棟担当薬剤師より

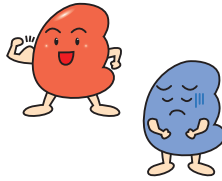
14病棟では、おもに消化器・泌尿器の疾患の手術や化学療法が行われています。とくに化学療法が行われる患者さんには、副作用やその対策、発現時の対応を説明し、安心して治療がうけられるよう努力しています。

秋山 耕治



せっかく検査結果をもらっても、略語が多く、何のことか分からないといったことはありませんか？

そこで普段よく行われる検査について、略語の意味をやさしく解説します。

	BUN	CRE
検査目的	腎機能検査	腎機能検査
正式名称	blood urea nitrogen 血中尿素窒素	creatinine クレアチニン
院内基準値	8.0~22.0 mg/dl	男性 0.6~1.1 mg/dl 女性 0.4~0.7 mg/dl
説明	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BUNとは、体内でエネルギーとして使われたタンパク質の燃えかすで、腎臓から尿素として排泄される</li> <li>・腎臓に異常があると、尿素的排泄が十分に行われず、値が上昇</li> <li>・タンパク質摂取の増加でも高くなる</li> <li>・腎機能をみるために、BUNとクレアチニンは同時に検査する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレアチニンとは、筋肉中に含まれるエネルギー物質が代謝され、腎臓から排泄される老廃物</li> <li>・腎臓に異常があると、クレアチニンの排泄が十分に行われず、値が上昇</li> <li>・男性は女性より筋肉量が多いので値が高くなる</li> </ul>
検査結果から分かること	高値 腎機能低下、蛋白の異化亢進、脱水など 低値 肝機能障害、低蛋白食	高値 糸球体腎炎、腎不全、血液濃縮(やけど・脱水) など 低値 尿崩症、筋萎縮など

このコーナーは、「あなたのご意見」に「検査結果の言葉の意味を分かるようにしてほしい」というご要望から企画しました。また、広報誌アンケートにも検査の説明のご要望をいただきました。貴重なご意見ありがとうございました。

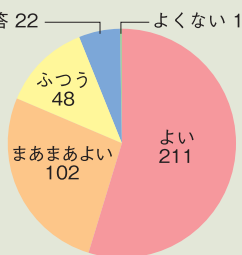
広報誌「こんにちはせいてつ病院です」vol.87新年号

## アンケート報告

1月に実施しましたアンケートへのご協力ありがとうございました。多くの反響があり、貴重なご意見・ご要望と、広報誌編集部会にもたくさんのエールを寄せていただきました。今後の企画・編集の参考にさせていただきます。13名で力をあわせて、より信頼と絆を深められる、魅力ある広報誌にしていきたいと思えます。 広報誌編集部会一同

	配布枚数	回収枚数	回収率
今回 2012.1	1,850	392	21.2%
(前回 2008.9)	1,817	286	15.7%

無回答 22



### ご意見・ご質問にお答えします

- ・表紙のタイトルが地味で分かりにくい  
▶今回よりリニューアルしました。
- ・配布先(読者の対象)は？  
▶患者さん・ご家族、地域医療機関、大学病院、関連企業、県内200床以上の病院、市民センターなど
- ・もっと深く掘り下げた内容にしてほしい  
▶利用者にも医療関係者の方々にも、幅広く親しんで読んでいただけるように企画しています。取り上げるテーマによって、専門性をどこまで追求するか、工夫していきたいと思えます。

広報誌アンケートでご要望がありました

こんにちはイラストレーター

TAMAYOさん  
を紹介します



### 絵を学んだ学校

九州産業大学附属九州高等学校(デザイン科)  
九州造形短期大学(視覚デザイン科)

### その他のおもな活動

2002年11月~2003年5月  
ワーキングホリデーでニュージーランドに滞在  
2007年~  
カラーセラピーを学ぶ  
2010年6~8月  
ハワイでロミロミを学ぶ



### メッセージ

縁あって、2004(平成16)年から表紙のイラストを担当させていただき、早いもので7年経ちました。はじめの頃は、素人同様の私のイラストで大丈夫かな？という不安もありましたが、こんなにも長い間採用していただき、とてもうれしく感謝しております。微力ではありますが、これからも「こんにちはせいてつ病院です」の魅力を伝えられるような表紙イラストを描いていけるよう頑張りたいと思えます。

ホノルルマラソンで完走

昨年12月11日に開催されたホノルルマラソンに、当院12病棟の行實朱美師長が参加しました。初めてフルマラソンに挑戦し約6時間で完走、感動のゴールを切りました。「初めてのフルマラソンはホノルルがよいと聞いていました。制限時間がなく、景色を楽しみながら歩いている人もいました。私もゆっくりと走りましたが、つぎは5時間を切りたいと思います。当院にはフルマラソンを4時間半で完走される先生もおられますし、12病棟では医師と看護師でリレーマラソンにも出場しています」



いつも、はつらつとされている行實師長。日ごろから健康づくりを実践し、医療スタッフが患者さんに安心・安全の医療を提供できるように心がけていますと、笑顔でこたえてくれました。

人事異動のお知らせ

3月末退職医師

消化器内科	山口 敢	眼科	平川 弥香
循環器内科	芳賀 祥江	放射線科	藤井 正美
糖尿病内科	伊藤 可央里	[臨床研修部]	
腎臓内科	吉水 秋子	研修医2年次	王 歆林
呼吸器内科	片平 雄之	研修医2年次	緒方 裕一
呼吸器内科	榎津 愛実	研修医2年次	桑原 千恵
呼吸器内科	加藤 香織	研修医2年次	田尻 裕匡
脳神経外科	雨宮 健生	研修医2年次	藤平 智道
外科	杉町 圭史	研修医2年次	百合野 彩乃
外科	奥村 幹夫	研修医1年次	勝原 俊亮
泌尿器科	平田 晃	研修医1年次	津田 麻理子
泌尿器科	藤野 充		

4月採用医師

肝臓内科	山崎 晃裕	泌尿器科	門司 惠介
消化器内科	平田 敬	眼	牛島 美奈子
循環器内科	中手 夕季	放射線科	井手 智
糖尿病内科	宮川 智愛	麻酔科	緒方 裕一
糖尿病内科	妹島 千恵	救急・集中治療部	松尾 瑞恵
腎臓内科	吉田 健	[臨床研修部]	
腎臓内科	中村 奈央	研修医1年次	池田 翔大
呼吸器内科	川上 覚	研修医1年次	太田 浩二
呼吸器内科	大庭 ひろみ	研修医1年次	坂田 一仁
呼吸器内科	花香 哲也	研修医1年次	中谷 未央
脳血管内科	松木 孝之	研修医1年次	東 晃史
脳神経外科	土持 諒	研修医1年次	宮内 沙奈
脳神経外科	矢野 博子	研修医1年次	宮内 幸
血管外科	青柳 幸彦	研修医1年次	津崎 有希
整形外科	原 正光	研修医1年次	野田 裕剛
泌尿器科	安達 拓	研修医1年次	福元 遼

新任医師のプロフィールは次号(7月)に掲載いたします。



ペットボトルキャップをあつめて  
世界の子どもたちに  
ワクチンを届けよう!

12月20日現在1095人分 協力ありがとうございます

- 11月 八幡大蔵病院のみなさん
- 12月 エーザイ(株)九州エリア九州三部のみなさん
- 1月 鳴水市民センターのみなさん/地域市民の方

診療科目

内科	肝臓内科	消化器内科	循環器内科	糖尿病内科	腎臓内科
心療内科	脳血管内科	呼吸器内科	小児科	外科	消化器外科
呼吸器外科	血管外科	脳神経外科	整形外科	リウマチ科	形成外科
産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	緩和ケア外科
病理診断科	放射線科	麻酔科			

専門外来

内科	神経内科/血液外来/甲状腺外来/膠原病外来/ペースメーカー外来/腹膜透析外来/禁煙外来	呼吸器内科	SAS外来(睡眠時無呼吸症候群)	整形外科	リウマチ外来
心療内科	カウンセリング/自律訓練外来	小児科	小児循環器/小児神経/小児腎臓/小児肥満/	放射線科	放射線治療外来
		外科	ペインクリニック	緩和ケア	緩和ケア外来
				女性診療外来	乳腺外来

休診日:日曜、祝日、第2・4土曜日

予約センター: 093-671-5489

夜間休日急患受付: 093-672-3111

全科予約制

予約受付時間 8:00~16:00  
当日予約は10:30まで

編集後記

東日本大震災からはや一年。一人ひとりができることは小さくても、力をあわせることでできることはふえると思ひ、日々を大切にすごしたいです。がんばろう。日本 薬剤部 松本知子

こんにちは  
せいてつ  
病院です

発行日: 2012年4月1日  
発行部数: 4000部

社会医療法人 製鉄記念八幡病院  
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1  
TEL 093-672-3176  
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp  
編集・発行責任者: 病院長 石束 隆男

●広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp  
●地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷: よしみ工業株式会社 表紙イラスト: かわぐち たまよ

